

タイトル	日本自動車産業と総力戦体制の形成（八）
著者	大場，四千男；OHBA, Yoshio
引用	開発論集(108)：77-125
発行日	2021-09-30

日本自動車産業と総力戦体制の形成 (八)

大 場 四千男*

目 次

- 一章 ヒットラーとドイツの大衆車構想
 - 1 ドイツの「大衆車構想」VW 車開発
 - 2 ドイツ自動車工業
 - 3 ドイツ自動車業界の再編成
- 二章 日本の「大衆車構想」
 - 1 日産自動車構想 浅野源七
 - 2 軍部の大衆車構想とビッグ・スリーの抬頭
 - 3 国産車メーカーとビッグ・スリーとの競争
 - 4 商工省の大衆車構想
- 三章 満州事変と陸軍の自動車政策
 - 1 戦争の自動車動員令
 - 2 陸軍の自動車政策——日露戦争
 - 3 陸軍の自動車政策——第一次大戦と総力戦体制
 - 4 軍需工業動員法と軍用自動車構想
 - 5 陸軍整備局の自動車工業助成策——中田佐一郎
 - 6 「軍用自動車補助法」と国産自動車産業の成立
 - 7 国産自動車メーカーの企業者群像
 - 8 関東大震災と輸入車黄金時代
 - 9 ビッグ・スリーの日本市場への参入
 - 10 日米合作運動と鮎川義介
- 四章 昭和期満州事変の自動車部隊編成と国産自動車の脆弱性
 - 1 日本GMの販売・金融組織
 - 2 日本フォードの販売・金融組織
 - 3 自動車市場と国産自動車の衰退
 - 4 満州事変期陸軍省の自動車動員政策——熱河作戦と伊藤久雄
 - 5 商工省の大衆車構想と岸信介、小金義照(第101号)
- 五章 商工省・鉄道省の自動車政策
 - 1 近代的輸送網への始動——鉄道からトラック・バスへの転換
 - 2 大衆車時代の発達——近代的都市と近代的交通機関の内的連結
 - 3 総力戦の方針と農商務省の資源調査政策
 - 4 総力戦の方針と商工省の設立——米騒動の歴史的意義
 - 5 商工省の産業政策と総力戦の準備
 - 6 商工省の自動車政策——標準型式自動車の製造
 - 7 満州事変の軍用自動車部隊と総力戦における自動車動員問題

* (おおば よしお) 北海学園大学開発研究所特別研究員

- 8 標準型式自動車の共同生産と鉄道省の技術指導
- 9 鉄道省の自動車政策 —— 標準型式自動車の採用とバス事業の開始
- 10 ディーゼルエンジンの開発と輸送の大型化・高速化（第102号）
- 第六章 総力戦体制の再編成と満州支配
 - 序
 - 1 後藤新平の満鉄総裁就任と国家経済主義
 - 2 対支21ヵ条要求と国家経済主義
 - 3 西原借款と国家経済主義
 - 小括（第103号）
- 第七章 第一次世界大戦の総力戦と日本陸軍の総力戦構想
 - 1 総力戦体制の起点と陸軍三人組
 - 2 小磯国昭の総力戦構想と「国防資源」論
 - 3 田中義一の総力戦構想と(甲)支那視察と日支親善外交の推進, (1)「対支経営私見」及び(2)「日支製鉄事業の共同経営に就て」
 - 4 (一)寺内正毅の総力戦構想と朝鮮総督
(二)寺内正毅の支那借款と東亞総力戦体制
(三)寺内正毅の軍用自動車補助法と軍需工業動員法による総力戦体制の形成（第104号）
- 第八章 軍用自動車補助法と軍用自動車の満州事変への動員
 - 1 満州事変から太平洋戦争への歴史的プロセス
 - 2 満州事変と関東軍自動車部隊の活躍
 - 3 満州事変における熱河作戦
 - 4 満州事変における河北境界方面作戦（第105号）
- 第九章 軍用自動車補助法の改正と輸送革命
 - 1 軍用自動車補助法の改正と輜重兵部隊の機械化＝自動車編成
 - 2 自動車の輸送革命と国産化運動
 - 3 自動車価格の動向と小運送業への自動車の影響（第106号）
- 第十章 国防国家と総力戦体制
 - 1 大正一昭和初期国防国家と総力戦体制
 - 2 総動員準備中央機関の変遷と国防国家強靱化過程
 - 3 総動員計画と資源の保育政策
 - 4 日満支の総力戦体制と国防国家強靱化政策（第107号）
- 第十一章 長期分析論とその課題
 - 1 自動車製造事業法は何故制定されたのか —— 問題提起
 - 2 長期的分析論における人口論
 - (1) 江戸時代の人口問題と家族形態
 - (2) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半

第十一章 長期分析論とその課題

1 自動車製造事業法は何故制定されたのか —— 問題提起

自動車産業の成立, そして発展がアメリカのフォード, GMの発展を自由主義的資本主義を体現するものと位置づけることが出来るなら, 他方に於けるロシア, ドイツそして日本に於いて軍用自動車産業として発展を見ることとなり, 国家社会主義の強靱政策, つまり, 軍需産業の一環として生み出される。とりわけ, 日本に於いては国防国家として天皇制国家を成立させ

るが、明治憲法は政治体制として天皇制国家を(1)軍人勅諭に基づく国防国家と(2)教育勅語に基づく「億兆ノ師」、つまり絶対王政国家として二重の性格を内包する特異な欽定憲法として伊藤博文によって制定される。しかし、成立期の明治政府は財政基盤を地租改正に求め、ようやく国防国家と「億兆ノ師」=天皇制国家とを両輪にして東亜の大国として一步を踏み出す。したがって、日清戦争、さらに日露戦争への勝利は(1)軍人勅諭と(2)教育勅語に基づく天皇制国家を東亜の大国へ発達させるが、経済過程において半封建型資本主義を発達させることとなる。すなわち、近世の徳川封建社会が260年の歴史を刻むことになった最大の要因は租・庸・調の租税体系に支えられていることになるが、5割から6割に達する田租の高率に由るのである。

この5割前後の高率租税体系は徳川封建体制の維持・発展に次の二つの点で大きく影響する。第一は農業人口の増減に影響する点である。つまり、^{はやみ}速水 ^{あきら}融教授が『近世農村の歴史人口学的研究』で明らかにしたように、人口は初期の「中世型」から幕末の近世型へ移行して急増する。この人口形態の変化は大家族制（隸農抱込）から近世的小農民層（小家族制=家制度）への移行によるのである。

しかし、この人口形態及び家族形態の変化は明治維新时期において徳川封建社会の礎^{いしづえ}となった租税率（田）5割を地租改正によって再生産され、近世的小農民層の農民層分解を促進し、地主=小作制を成立させると同時に、農村の過剰人口と零細農耕制とを発展させる契機となる。

ここに地租改正によって創出されるこうした零細農民（小作人、自小作人、小農民層）は農村での過剰人口として累積され、半封建的零細小農民として農村の中で分家として自立化しようとする。かくて、地租改正は徳川封建体制の半封建的零細農耕制を地主制の礎^{いしづえ}にすることで半封建的資本主義を日本型として生み出し、資本主義の発達を脆弱にする原因となる。

資本主義の発達への道が古典的なイギリス型と後進国型の日本とに類型化される時、この発達の両形態を分ける要因は何に求められるのであろうか。ここでは、それは農業資本主義の発達への二つの道に求められる。どうして、日本の農業は封建制から資本主義への移行においてイギリス型の3分割制農業資本主義を発達させることが出来なかったのであろうか。前述したように日本に於いては地主=小作制を中心とする半封建的零細農耕制が発達することになるが、その結果、満州事変→北支事変→大東亜戦争への拡大とその顕現化とは日本型農業資本主義の半封建的零細農耕制と農村過剰人口との両者を解決するため、移住農民の耕地を吸収して本家、或いは分家への自作農創出用土地として再利用しようとする農業政策として推進しようとすることによって生じるのである。このように、地租改正は農業の中核を成す稲作農家の農民層分解を地主=小作制の成立へ指向させ、と同時に、零細農民の過剰人口をも生み出し、資本主義農業を縮小再生産させる原因となる。したがって、地租改正は自動車を中心とする重化学工業の大衆市場をむしろ縮小させるように作用する。このため、自動車は大衆市場に依拠して拡大されるのではなく、むしろ、軍需市場或いは高級奢侈品市場として輸入される。日本ではアメリカの乗用車大衆市場の発達に支えられる国産自動車産業の歩みでなく、国家強靱の国防軍需産業として発展することとなる。

日本資本主義の中心産業を形成する農業と自動車産業はイギリスの3分割制農業、さらにアメリカの大衆車産業と相違する日本型産業として発達する。地租改正は近世の徳川封建体制を支えた5割の生産物地代を貨幣地代へ転化しても、その5割の租税率を明治6年に引継ぎ、天皇制絶対王政の財政基盤として位置づけられる。ここに、地租改正は近世の封建遺制を近代の財政基盤として再生され、資本の本源的蓄積過程の役割を果たすのである。それゆえ、地租改正は徳川封建体制を明治天皇制（絶対王政）の財政基盤の中心に据えられ、イギリス、アメリカの産業資本主義と相違する半封建的資本主義を生み出す契機となる。かくて、明治維新の長州と薩摩藩によるクーデターで設立される天皇制国家は最初から東亜の大国として登場し、日清戦争と日露戦争に勝利し、台湾、朝鮮、南満州そして樺太を領土として編入する。大正期に入ると、天皇制国家は第一次世界大戦に参戦し、大隈重信内閣による対支25ヶ条要求を支那政府に強要することで、世界列強との対立を深める。とりわけ、ポーツマス条約で日本に好意を示していたアメリカは対支25ヶ条要求に対して驚き、イギリスと共に日本の国際的膨張を抑え込み、日本包囲網の形成と支那からの撤退を国際条約或いは軍縮条約によって要求し、行動を強めようとする。

日本の国際的膨張は第一次世界大戦後に著しく強まり、シベリア出兵にその全体像を現わし始める。明治維新から大正、そして昭和にかけて日本の膨張主義が顕現化したのは移民に代表される人口増大の爆発的趨勢である。地租改正の重税を課す代りに農民は、(1)農業への緊縛から解放され、(2)結婚への自由時代を迎えるのである。この結果、農村は近代的小家族制と零細小農制とに基づく若年結婚のブームで人口爆発を生み、過剰人口の温床と化す。農村から都市への人口移動は、ここに都市人口の中に大量の下層労働者階層と下級商工業者層を沈澱させる要因と化す。

しかし、農村から都市への人口移動とその増殖は商工業の規模拡大と機械制工業での低賃金を一般化し、工場制の両極分解を生じさせ、中小企業と大企業への企業形態の分解を育んだ。とりわけ、機械の分業と協業に基づく工場制の普及は農村からの低賃銀労働者層と女工層の採用で、生産コストの低下から輸出ドライブの発生で、世界市場への進出を促すのである。とりわけ、繊維産業の生糸と木綿紡績工場は、こうした農村から流入する安い低賃銀者層と女工層とで漸次規模を拡大し、マニュファクチュア→機械制中小企業→企業合併による中堅企業へ発達して産業資本主義時代を生み出す。

それゆえ、明治時代から開始される人口爆発は一面、地租改正によって促進され、他面戸籍制度による家制度の発達で生じるのである。こうした明治時代から生じる人口爆発は大正から昭和時代に入ると、第一次世界大戦の反動不況と昭和2年の金融恐慌、さらに昭和5年の昭和恐慌の中で資源不足を深刻化させ、移民の奨励と満州事変の拡大とで解消されることの無いまま、戦争に解決を求め始める。その主要な過剰人口と過少資源の解決とを戦争に求め、大東亜共栄圏の形成に導こうとしたのが近衛文麿である。もし、人口爆発と過少資源とが存在しなかったら、近衛文麿と東条英機も大東亜共栄圏の形成のための大東亜戦争を行なわなかったで

あろう。

明治維新の近代は地租改正によって徳川封建体制の半封建構造を天皇制絶対王政の礎^{いしづえ}に組み込んだ。次に、大正から昭和にかけての人口爆発と過少資源は日本資本主義の大陸への膨張主義を生命線として南方を含む大東亜共栄圏の建設原因に転化する。しかし、敗戦を契機にする現代の日本は明治維新の王政復古から日米同盟への移行を余儀なくされる。しかし、令和の時代に入った今日において日本は逆にコロナと人口減少の危機を迎え、その脆弱な資本主義の発達に苦しみつつある。

現代日本の現状と発達を分析することは、これまで述べてきたように江戸時代の「近世」、さらに明治維新の「近代」の上に築かれる「現代」を把握することによって可能とされる。こうした長期歴史分析はより一層過去の「近世」と「近代」、さらにその上に築かれる「現代」の理解を可能にする有力な歴史方法であると考えられる。すなわち、長期歴史分析は、例えば日本の自動車産業の歴史を明らかにしようとする場合、その歴史環境の中に位置づけ、日本の特異な歴史に求められる自動車の導入過程と普及環境を明らかにすることで初めて日本型自動車産業の特異性と普遍性を分析することを可能にされるものと考えられる。

したがって、この小論は自動車産業の歴史的発達を試みることになるが、その際、長期歴史分析を応用する一つの試論でもある。

2 長期的分析論における人口論

(1) 江戸時代の人口問題と家族形態

既に述べたように、長期的分析の課題は(1)人口論と(2)地租改正とであり、江戸時代の近世から明治維新の近代への移行、つまり、封建制から資本主義への移行における日本の特殊性を比較史的に分析することである。こうした長期的分析は結果として自動車産業の日本的成立とその発達の特異性を明らかにする有力な方法論となる。

江戸時代の人口論を取り挙げた先駆者は前述したように速水 融^{はやみ あきら}教授である。速水教授は江戸時代初期の“中世型”人口構造から幕末期の“近世型”人口構造への移行を宗門改帳の分析によって明らかにし、人口爆発の原因として家族制度の変化を次のように指摘する。

(イ) 近世型人口論

まず、これらの諸統計を通観していえることは、江戸時代のうちに進行した人口学的諸事実の変化の大きさである。人口総数はもちろんのこと、その構成内容、変動の諸率のすべてにわたって大幅な変化を示している。ここで取り扱った時代の初期、とくに1700年以前においては、農民の人口学的指標は18世紀後半以降のそれとはかなり違っている。おそらく、後進地帯のこの地域においては、17世紀末にはなお“中世”的性格が残存していたのであろう。この特徴は、およそ以下のごとく要約できるだろう。世帯の構成は、傍系家族を含むかなりの規模の大きい世帯と小規模世帯からなっている。前者の構成要員である傍系家族や下人は結婚率が低く、多くは独身である。したがって、彼らが多数を占めれば占めるほど全体としての有配偶率は低くなる。幼児の死亡率は非常に高く、数え年2歳児でも10歳までにその40～50%

は死亡している。そのため平均余命は短く、数え年での平均余命は30歳前後となる。また、年齢階層別死亡率は男子よりも女子のほうが全体として高く、これは女子の生活形態と関連があると考えられる。結婚年齢は低く、とくに女子においては平均16～17歳であった。人口の人為的制限はなかったから、1組の夫婦の産む子供の数は多く、この平均結婚年齢で50歳までに産んだ子供のうち少なくとも8人は数え年2歳になっている。数え年1歳での死亡を考えれば、おそらく総出生数は12人程度であったと思われる。出産率の最も高いのは21～25歳層であった。多産多死型の年齢構造ではエイジ・ピラミッドの底辺が広がり、典型的な富士山型をなしていた。

(速水融「近世農村の歴史人口学的研究」225頁)

この引用文から窺えるように信州諏訪地方は1700年以前に豪農(名主、村役人)の大家族制(従属隷農)と中産自作農(小農)の小家族との併存状態とを特色とする。こうした家族形態を特徴づける人口構造は下層農民の多産化による富士山型人口構造を生み出し、中世的構造と人口停滞として特徴づけられる。しかし、江戸幕府は農業への農民緊縛と「小農自立」の農業政策を展開し、分家への自立化と隷農民の小農層への独立を奨励する。さらに、5つ割の田作重税、伝染病の流行、自然災害、飢饉等が相互に影響し合い、人為的な出生制限(墮胎、間引)等は人口減少をもたらし、1780～1790年代において人口減少の危機を生んだ。かくて、江戸時代の人口構造は近世の小農の家族制度に支えられて静態的な人口維持を余儀なくされる。人口構造は小農の家族制度と家制度を中心にする近世的構造を確立し、明治維新を迎える。速水融教授は江戸時代の人口危機を契機とする近世的人口構造への転換を次のように指摘する。

小家族制のもとで与えられた人口増大の潜在力はなんら制限を受けることなく顕在化する。これこそ近世初期の人口爆発であり、諏訪地方においてもはっきりと確認される現象なのであった。

しかし、このような人口増大は、いつまでも続くものではない。工業化以前の社会では、とくに日本の場合のように一つのclosed economyのもとでは、人口増大を吸収すべき余地はしだいに窮屈なものとならざるをえない。さきあげた条件のどれをとっても有限であり、年1%以上の人口増大をもってすれば比較的早く限界につき当たるのである。耕地面積の拡大は、平坦部においてはおそらく最も早く限界に達し、緩傾斜地や海岸干拓等の開発以外には耕地面積拡大は不可能となる。都市人口の増大も、輸送技術や制度上の制限から、ある上限に達するか、増加率が鈍化せざるをえない。もちろんこういった状況のもとでも、農村から都市への人口流入は続くのであるが、その率や量は低下するだろう。農業技術の集約化にしても、ある限界以上になることはできないだろう。江戸時代の農業は、当時の技術としては限界まで達した集約農業の典型であったことはしばしば指摘されているとおりである。

このような上限への到達の時期にはもちろん大きな地域差があったし、漸進的な性格のものであった。上限に近づくにつれて、それはいわゆる人口圧力となってさまざまな困難を人々に与えたであろう。それがどの程度人々に意識されたかは別として、上限への接近にともなって、人口増大を回避しようとする行動がいくつかみられる。平均結婚年齢(とくに女子)がややおそくなり、出稼がふえる。しかし、これだけではとうてい増加率を大きく引き下げることができない。いまや人々は生活水準を低下させるか、それができなければ結婚率をドラスティックに引き下げ、大家族制へもどるか、なんらかの人為的な出生制限をおこなうべく選択を迫られる。この場合なにが選ばれるかは、もちろん「人口圧力」の大きさにも関係するだろう。概していえば、諏訪地方を含む中央山岳部から東北日本にかけてみられるのは、いわゆる墮

胎、間引きという制限であった。これは制限のうちでも最もシビアなものであり、とくに道徳的見地に立った場合そうであろう。加えて18世紀末には、日本の自然環境は悪化し、とくに中央部から東北部にかけて連続的な冷害、浅間山噴火等の災害が続いた。もろもろの人口学的指標は、1780～90年代に1つの人口危機とでもいうべき変化を記録している。この短期変動を含めて、人口増大が上限に到達した後の局面には確かに一種の悲惨さが映しだされていることは事実である。見せかけのうえでの生産力の大幅な低下は、いかに人為的制限が実施されたかの強い表現である。結婚年齢のいかんを問わず、いまや子供の数は一定に近くなってしまった。生産力に関する諸指標は、ほとんどそれが人口を維持しうる最低水準にまで低下しているのである。

（速水融 前掲書 227～228 頁）

速水融教授が分析の対象とした長野県信濃地方はマニファクチュア論争の産業先進地帯であり、とりわけ生糸、養蚕産業の農村工業発達地となって明治維新への発生源となったところである。それゆえ、農村工業の発達は明治時代に入ると、機械工場制へ発達する。さらに都市における富裕な商人層を中心にする株式会社制度の採用は機械制工場制と輸出市場、国内市場を巡って競争を激しくするが、寡占企業への推進力ともなった。したがって、これら農村工業のマニファクチュアへの発展は近世的小農民とその小家族を担い手にする点や、イギリスのノーフォーク、サフォークの自生的農村工業の担い手である独立自営農民層と同じ経営形態である。ここにイギリスと類似の発達を歩む長野県信濃地方の農村工業は日本資本主義の自生的な発達を特徴づける一面でもある。

以上のように速水融教授の人口論は江戸時代から明治維新への移行を特徴づける長期分析法として一つの方向性を示す有益な研究成果と云える。

したがって、次に速水融教授の人口論を世田谷を例にとりて東京近郊でも生じている点を次に検証する。

（2）資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半

まず最初に試みる点は中世的な家族制度に基づく人口論である。世田谷二十ヶ村は彦根藩井



大洞弁財天殿

図表-2 「泛湖遂登大洞山」
頼 山陽

湖鳥雙々触櫂飛
扁舟容与憺忘歸
忽然憶起老菅句
更上洞山看落暉

伊家の飛地として彦根藩領として編入され、明治維新まで支配されている。対象とする資料は元禄8年（1695）に4代藩主井伊直興が病気を直すため、松島升順の勧告により弁天堂の建立を大洞の地に求め、その建設資金として一人1文宛の奉加金を募集する寄付帳、つまり、「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」（世田谷式拾ヶ村分）の図表-1である。この図表-1「寄帳」には世田谷式拾ヶ村の総人口6,226名のうち734人（12%）が奉加金を寄付しているが、この734人は世田谷二拾ヶ村の主要な代官、名主、年寄等の村役人層（293名、40%）と残り60%の本百姓を含むのである。したがって近世の人口論はこれら上層農民、豪農の下人経営に支えられる大家族制と小家族制の混合形態を構成し、速水融教授の「中世型」を検証することが出来るので長文の資料図表-1「世田谷式拾ヶ村御帳」であるが、以下のように、次に掲げる。尚、前頁の図表-2は建立された大洞弁財天本殿と頼山陽の「泛湖遂登大洞山」である。尚、引用資料の✓印は下人経営の家族構成であり、中世型地頭制度、つまり、地主直営地耕作の経営形態を表わしている。

図表-1 「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳（世田谷式拾ヶ村分）」

元 禄 八 歳

世 田 谷 式 拾 ヶ 村 御 帳

乙 亥 六 月 十 二 日

一、鳥目五拾三銭壱人前壱銭宛

世田谷御代官	✓ 大 場 市 左 衛 門
	祖 母 妙 蓮
	伯 母 妙 全
	同 妙 修
	同 妙 知
	同 よ ね
先市左衛門従弟	✓ 大 場 孫 八
市左衛門居屋敷罷在候	寿 慶
	下 人 仁 左 衛 門
	同 勝 右 衛 門
	同 権 介
	同 佐 次 兵 衛
	同 傳 介
	同 権 三 郎
	同 金 兵 衛
	同 七 兵 衛
	同 半 兵 衛
	同 源 五 兵 衛
	同 勘 三 郎
	同 石 兵 衛
	下 女 し と
	同 と く

同	な	つ
同	よ	し
同	と	ら
同	き	よ
同	つ	た
同	す	へ
同	つ	な
同	い	わ
同	ま	ん
同	さ	ご
同	き	さ
寿慶下女	か	る
市左衛門屋敷守	五 郎 兵 衛	
	妻	
娘	は	つ
同	つ	や
同	す	ぎ
市左衛門屋敷守	忠 左 衛 門	
	妻	
娘	よ	し
同	ま	き
市左衛門屋敷守	金 左 衛 門	
金左衛門下人	七 兵 衛	

同 弥五兵衛
同 市太郎
同 三太郎
同下女 かつ
同 さつ
市左衛門屋敷守 権右衛門
娘 こちよ
同 はま

1 世田谷村

一、鳥目式拾壹銭老人前壹銭宛

名主 ✓ 大場 六兵衛
妻 兵衛
子 弥兵衛
妻 かつ
六兵衛娘 かつ
下人 三左衛門
同 久三郎
同 六市介
同 太郎兵衛
同 勘介蔵
同 八蔵
下女 ますね
同 たまめ
同 かきよす
同 りさん

一、鳥目拾八銭壹人前壹銭宛

名主 ✓ 宇田川 理左衛門
妻 や
子 こ之丞
娘 久ゆわ
下人 権介
同 金三郎
同 九郎兵衛
同 権四郎
同 長四郎
同 与四右衛門
下女 小介
同 たつ
屋守 弥五兵衛

妻
母
弥 介

一、鳥目貳拾壹銭老人前壹銭宛

名主 ✓ 関 善左衛門
妻 善左衛門
子 半太郎
善左衛門兄 市郎左衛門
下人 弥五兵衛
同 弥介
同 由蔵
同 由兵衛
同 五右衛門
下女 いと
同 しまし
同 よ

一、鳥目拾七銭老人前市銭宛

年寄 ✓ 石田 重兵衛
妻 重兵衛
母 次郎
重兵衛子 小三郎
同 小つめ
同 娘 傳兵衛
下人 八兵衛
同 同 長四郎
同 同 由兵衛
同 同 八三介
下女 たつ
同 同 同 ため
同 同 同 かさ

一、鳥目九銭老人前壹銭宛

年寄 ✓ 大場 三郎左衛門
妻 三郎左衛門
母 弥作
同 妹 ま三郎
下人 長市介
同 同 吉右衛門
下女 とめ

一、鳥目五銭老人前壹銭宛

年寄 松本 惣左衛門
子 惣妻
竹松

同 午 娘 ゆ き

一、鳥目拾銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 丹 下 太 左 衛 門

妻

母

同 太左衛門 下 人 七 之 介

同 牛 之 介

同 久 左 衛 門

同 八 兵 衛

同 三 介

同 下 女 は っ つ

同 た っ つ

一、鳥目七銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 榎 本 平 左 衛 門

妻

母

同 平左衛門 下 人 娘 ま ん

同 ゆ わ

同 下 人 権 右 衛 門

同 下 女 な っ つ

一、鳥目拾五銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 大 場 理 右 衛 門

妻

同 父 孫 右 衛 門

同 理右衛門 同 下 人 娘 子 き よ

同 左 平 次

同 甚 左 衛 門

同 甚 兵 衛

同 八 左 衛 門

同 德 兵 衛

同 権 右 衛 門

同 仁 介

同 下 女 な っ つ

同 か る ま さ

同 た ひ さ

一、鳥目六銭老人前老銭宛

年寄 宇 田 川 喜 左 衛 門

妻

母

同 喜左衛門 下 人 娘 子 権 介

同 ゆ き

同 弟 弥 五 左 衛 門

一、鳥目拾銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 大 場 吉 右 衛 門

妻

同 下 女 子 善 次 郎

吉右衛門 妻 松 下 子 虎 三 郎

同 姪 傳 之 介

同 子 妻 七 三 郎

同 下 女 山 三 郎

同 下 女 な っ つ

一、鳥目拾貳銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 小 川 源 左 衛 門

同 妻 右 衛 門

同 子 源 妻

同 源左衛門 娘 す て

同 同 同 子 せ ん

同 源右衛門 子 三 太 郎

同 同 同 娘 彦 太 郎

同 同 同 娘 次 郎

同 同 同 下 女 は ね

同 同 同 下 女 か つ や

一、鳥目九銭老人前老銭宛

年寄 ✓ 是 庭 彦 兵 衛

妻

母

同 彦兵衛 子 半 之 介

同 同 娘 六 之 介

同 同 同 下 人 ぜ と

同 同 同 下 人 を 八 蔵

同 同 同 喜 兵 衛

一、鳥目拾貳銭老人前老銭宛

同 権 左 衛 門

同 妻

同 母

同 権左衛門 子 十 介

同 同 娘 文 太 郎

同 同 弟 と 次 兵 衛

同 同 同 甚 兵 衛

同 同 同 妻 七 郎 兵 衛

同 権左衛門 弟 七 之 介

同 甚兵衛 子 七 さ く

同 同 娘

一、鳥目七銭老人前老銭宛

同 市 郎 兵 衛

同 妻

同 母

同 市郎兵衛 子 善 兵 衛

同 太郎兵衛
同 三介
同 妹 しも

一、鳥目七銭老人前老銭宛

小 兵 衛
妻 かつめし
子 かとよ
娘 八介
同 弟 吉左衛門

一、鳥目五銭老人前老銭宛

次 郎 兵 衛
妻 佐 太 郎
子 娘 は 南
同 ぎ ん

一、鳥目三銭老人前老銭宛

佐 左 衛 門
妻 と ら
姉

一、鳥目六銭老人前老銭宛

権 十 郎
妻 た る 太 金
娘 同 孫 郎 孫 甥
同 甥 金 兵 衛

一、鳥目五銭老人前老銭宛

吉 左 衛 門
妻 五 平 次
子 甚 之 介
吉左衛門子

一、鳥目六銭老人前老銭宛

忠 兵 衛
妻 由 兵 衛
子 娘 し げ
同 同 い ぬ
と め

一、鳥目五銭老人前老銭宛

✓ 庄 左 衛 門
妻 十 郎 兵 衛
子 妻 三 郎
下 人

一、鳥目六銭老人前老銭宛

平 三 郎
妻 三 五 郎
子 権 之 介
同 娘 ま つ
同 子 由 兵 衛

一、鳥目式銭老人前老銭宛

弥 兵 衛
母

一、鳥目六銭老人前老銭宛

太郎右衛門
妻 才 三 郎
子 才 三 郎 娘
太郎右衛門弟 庄 三 郎
庄三郎娘 み い

一、鳥目三銭老人前老銭宛

八郎右衛門
妻 六 郎 平
子

一、鳥目九銭老人前老銭宛

✓ 六 左 衛 門
妻 金 右 衛 門
子 妻 太 め
金右衛門子 同 娘 長 と げ ん わ
同 子 同 娘 下 人 長 五 郎

一、鳥目八銭老人前老銭宛

✓ 勘 兵 衛
妻 母 孫 介
兵衛子 同 娘 や 兵 衛
同 子 同 子 清 左 衛 門
下 人 吉 左 衛 門
下 女 か つ

一、鳥目五銭老人前老銭宛

権 右 衛 門
妻 く ま き
子 娘 あ よ め
権右衛門姉

一、鳥目四銭老人前老銭宛

庄 九 郎
妻

一、鳥目五錢老人前老錢宛
 忰子 か ま
 同 午
 仁 兵 衛
 妻 太 郎
 忰子 勘 太 郎
 娘 あ き
 同 と ら
 一、鳥目七錢老人前老錢宛
 ✓ 三 右 衛 門
 妻
 忰子 四 郎 兵 衛
 娘 ぎ ん
 忰子 権 介
 同 三 太 郎
 下 人 八 左 衛 門
 一、鳥目七錢老人前老錢宛
 八 左 衛 門
 妻
 忰子 長 藏
 同 八 右 衛 門
 同 又 兵 衛
 同 長 三 郎
 妻
 一、鳥目四錢老人前老錢宛
 長 介
 妻 と 介
 忰子 と ら
 娘 か め
 一、鳥目五錢老人前老錢宛
 仁 左 衛 門
 妻
 忰子 七 藏
 娘 た ね
 姉 き い
 一、鳥目拾錢老人前老錢宛
 ✓ 市 兵 衛
 妻 太 郎
 忰子 辰 之 介
 同 娘 る ぢ や す う
 同 市兵衛弟 ち 十 郎
 下 人 平 猪 兵 衛
 同 同 五 兵 衛
 同 同 五 兵 衛
 一、鳥目七錢老人前老錢宛
 ✓ 勘 右 衛 門

妻
 娘 ゆ き
 同 ひ や く
 忰子 す け
 娘 下 人 き く
 与 兵 衛
 一、鳥目六錢老人前老錢宛
 ✓ 久 右 衛 門
 妻
 忰子 弥次右衛門
 妻
 弥(次)右衛門忰子 太 郎 兵 衛
 下 人 勘 四 郎
 一、鳥目三錢老人前老錢宛
 源 太 郎
 妻 ま つ
 娘
 一、鳥目拾錢老人前老錢宛
 ✓ 弥 右 衛 門
 妻
 忰子 弥惣兵衛
 妻
 弥右衛門忰子 儀 左 衛 門
 同 同 か ん
 同 午
 弥惣兵衛忰子 犬 松
 下 人 下 女 弥 五 兵 衛
 下 女 な つ
 一、鳥目七錢老人前老錢宛
 ✓ 六 右 衛 門
 妻
 母
 六右衛門娘 か ね
 同忰子 同 傳 之 介
 同 娘 同 娘 下 人 つ や 介
 下 人 長 介
 一、鳥目九錢老人前老錢宛
 忠 三 郎
 妻
 忰子 安 左 衛 門
 妻
 忠三郎忰子 重 兵 衛
 同 同 竹 藏
 同 同 勘 右 衛 門
 同 同 勘 太 ね
 同 娘 つ ね
 一、鳥目三錢老人前老錢宛
 久 左 衛 門

一、鳥目三銭壱人前壹銭宛
 倅子 妻 久 太 郎
 長 右 衛 門
 妻
 娘 よ し

一、鳥目九銭壱人前壹銭宛
 倅子 七 兵 衛
 妻 勘 左 衛 門
 妻
 七兵衛倅子 猪 兵 衛
 同 十 左 衛 門
 同 む う
 勘左衛門娘 ま ん
 同倅子 金 三 郎

一、鳥目六銭壱人前壹銭宛
 倅子 五 兵 衛
 妻 五 左 衛 門
 妻
 五兵衛倅子 九 兵 衛
 同 娘 ゆ わ

一、鳥目五銭壱人前壹銭宛
 倅子 勘 太 郎
 妻 勘 兵 衛
 倅子 勘 き く
 倅子 三 左 衛 門

一、鳥目三銭壱人前壹銭宛
 倅子 才 兵 衛
 妻 か ん

一、鳥目七銭壱人前壹銭宛
 倅子 庄 右 衛 門
 妻 妻
 倅子 し や う
 娘 ぢ や う
 倅子 か ん
 同 門 左 衛 門
 妻

一、鳥目六銭壱人前壹銭宛
 倅子 彦 六
 妻 彦 右 衛 門
 倅子 彦 右 衛 門
 妻 彦 右 衛 門
 彦六倅子 佐 兵 衛
 同 娘 か ん

一、鳥目五銭壱人前壹銭宛
 倅子 久 兵 衛
 娘 妻 傳 右 衛 門
 下 女 し や う ぶ
 さ わ

一、鳥目四銭壱人前壹銭宛
 倅子 吉 右 衛 門
 娘 妻 大 介
 大 か や
 与 十 郎

一、鳥目壹銭
 一、鳥目三銭壱人前壹銭宛
 倅子 九 左 衛 門
 娘 勘 三 郎
 せ ん

一、鳥目拾壹銭壱人前壹銭宛
 下 人 ✓ 源 兵 衛
 同 傳 十 郎
 同 市 郎 兵 衛
 同 七 兵 衛
 同 五 郎 兵 衛
 同 与 兵 衛
 同 六 右 衛 門
 同 仁 兵 衛
 下 女 た つ
 同 そ ね

一、鳥目六銭壱人前壹銭宛
 倅子 久 四 郎
 同 妻 母 太 郎
 同 久 孫 四 郎
 同 三 之 介

一、鳥目拾貳銭壱人前壹銭宛
 倅子 ✓ 弥 兵 衛
 同 妻 猪 兵 衛
 同 妻 妻 た つ
 同 同 ゆ きり
 猪兵衛倅子 猪 之 介
 同 弥兵衛甥 三 郎 兵 衛
 三郎兵衛倅子 妻 太 郎
 下 人 三 九 郎

一、鳥目四銭老人前老銭宛

三十郎
妻
父 次兵衛
母

一、鳥目八銭老人前老銭宛

✓ 平右衛門
妻
母
平右衛門倅子 辰之介
同弟 十右衛門
同下人 長藏
下人 三介
下女 ゆき

一、鳥目六銭老人前老銭宛

長兵衛
妻
倅子 長左衛門
同 猪之介
同 喜兵衛
同 かん

一、鳥目九銭老人前老銭宛

長右衛門
妻
娘 久三郎
妻 せう
長右衛門娘 久三郎倅子 吉三郎
同 孫介
下女 はま
同 つつ

一、鳥目五銭老人前老銭宛

次左衛門
妻
倅子 傳介
娘 ろく
娘 はな

一、鳥目拾六銭老人前老銭宛

✓ 猪兵衛
妻 甚之介
倅子 万之介
同娘 くら
弟 宇右衛門
同 源之介
下人 権四郎
同 長兵衛
同 半三郎

同 忠兵衛
同 門左衛門
下女 かめ
同 よし
同 まき
同 く に

一、鳥目七銭老人前老銭宛

九左衛門
妻
母
倅子 小左衛門
同 勘十郎
娘 たんちよ
九左衛門弟 五右衛門

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

市右衛門
妻
倅子 十三郎
同 徳介
娘 みつよ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

市郎左衛門
妻
倅子 権兵衛
同 五郎
娘 ゆわ

一、鳥目五銭老人前老銭宛

市兵衛
妻 七郎兵衛
倅子 はな
同 とめ

一、鳥目拾銭老人前老銭宛

✓ 権左衛門
倅子 妻左衛門
娘 庄妻
同 すて
同 かん
同 せき
倅子 牛之介
下人 次郎右衛門
同 権四郎

一、鳥目八銭老人前老銭宛

傳左衛門
妻
倅子 小右衛門

		妻	
傳左衛門	忰子	善右衛門	
	同娘	よし	し
小右衛門	娘	はな	なき
	下女	ま	き
一、鳥目五錢	老人前		
		佐五兵衛	
		母	
	弟	才兵衛	
		妻	
才兵衛	娘	ゆき	
一、鳥目七錢	老人前		
		戸右衛門	
		妻	
	忰子	三太郎	
	同娘	弥之介	
	同	あき	
	同	ぢやう	
		ふ	う
一、鳥目五錢	老人前		
		太郎兵衛	
		妻	
	娘	よし	
	姉	ゆき	
	弟	権九郎	
一、鳥目四錢	老人前		
		八郎兵衛	
		妻	
	娘	たつき	
	同	さ	き
一、鳥目四錢	老人前		
		六右衛門	
		妻	
	同	つや	
	忰子	三之介	
一、鳥目拾三錢	老人前		
		✓角左衛門	
		妻	
	忰子	門左衛門	
		妻	
角左衛門	忰子	次郎	
	同娘	りん	
門左衛門	娘	ゑん	
	同	いね	
	下人	長左衛門	
	同	作兵衛	
	同	長兵衛	
	下女	くら	

		同	ま	つ
一、鳥目三錢	老人前			
			佐五右衛門	
		忰子	竹藏	
	娘	は	つ	
一、鳥目六錢	老人前			
		✓	徳左衛門	
			妻	
	忰子		太郎	
	下人		彦兵衛	
	同		半兵衛	
	下女		な	つ
一、鳥目八錢	老人前			
			七郎兵衛	
			妻	
	娘		けさ	
	同		しも	
	同		はな	
	忰子		むま	
	姻		与四右衛門	
			妻	
一、鳥目四錢	老人前			
			権兵衛	
		忰子	妻	
	同		牛之介	
			猪之介	
一、鳥目五錢	老人前			
		✓	津多都	
			妻	
	忰子		次郎	
	下人		安右衛門	
	同		喜藏	
一、鳥目三錢	老人前			
			庄右衛門	
			妻	
			文太	
一、鳥目貳錢	老人前			
			善兵衛	
			妻	
一、鳥目拾錢	老人前			
		✓	太郎左衛門	
			妻	
			母	
	太郎左衛門		甚之丞	
	忰子		妻	
	太郎左衛門		五郎右衛門	
	同娘		ひさ	
	甚之丞		市之介	

下人 八 蔵
同 才 兵 衛

一、鳥目三銭老人前壱銭宛

五郎兵衛
妻
母

一、鳥目七銭老人前壱銭宛

作右衛門
妻
弟 安 兵 衛
妻
作右衛門片子 権 介
同 六 之 助
ふ う

一、鳥目七銭老人前壱銭宛

勘右衛門
妻
片子 金 兵 衛
勘右衛門片子 権 助
同 虎 之 助
同 七 之 助

一、鳥目四銭老人前壱銭宛

七郎右衛門
妻
片子 権 右 衛 門
娘 す ぎ

一、鳥目六銭老人前壱銭宛

善 兵 衛
妻
片子 久 太 郎
同 仁 三 郎
同 権 之 丞
娘 ゆ り

一、鳥目五銭老人前壱銭宛

与次左衛門
母
与次左衛門弟 五 兵 衛
同従弟 平 四 郎
妻

一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ

与 兵 衛
妻
弟 権 兵 衛
与兵衛片子 与 蔵
同 娘 き い

一、鳥目七銭老人前壱銭宛

惣 九 郎

妻
父 長 三 郎
妻
惣九郎片子 勘 三 郎
同 勘 太 郎
同 山 三 郎

一、鳥目八銭老人前壱銭宛

✓ 平 兵 衛
妻
母 さ か
平兵衛娘 同 み ね
同 同 ふ く
下人 佐次右衛門
下女 す て

一、鳥目七銭老人前壱銭宛

市郎右衛門
妻
片子 九 郎 兵 衛
九郎兵衛片子 勘 之 助
同 同 猪 之 助
同 娘 た ま

一、鳥目七銭老人前壱銭宛

門左衛門
妻
父 勘 七
門左衛門片子 同 娘 勘 之 助
同 同 け さ
同 同 は た つ
下女 た つ

一、鳥目四銭老人前壱銭宛

半左衛門
妻
娘 げ ん
半左衛門孫 山 之 助

一、鳥目九銭老人前壱銭宛

長左衛門
妻
善 右 衛 門
妻
錚 や す
長左衛門娘 同 ふ り
同 同 た ん 女
善右衛門片子 同 娘 百 之 助
同 娘 い ぬ

一、鳥目五銭老人前壱銭宛

十郎右衛門

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 妻 小三郎
 忒子 小けさり
 娘同 ゆり

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 喜右衛門
 妻 太郎
 忒子 勘助
 娘同

一、鳥目九錢老人前老錢ツ、
 市右衛門
 妻 長吉
 忒子 はつ
 娘

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 ✓ 半兵衛
 妻 甚左衛門
 忒子 甚之助
 同 同 長三郎
 同 同 勘三郎
 下 人 又右衛門
 同 女 作左衛門
 下 女 たん

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 金右衛門
 源五右衛門
 辰之介

一、鳥目九錢老人前老錢宛
 奎左衛門
 妻 傳十郎
 忒子 妻
 奎右衛門
 妻 熊つなる
 傳十郎忒子 同娘 下女

一、鳥目六錢老人前老錢宛
 五兵衛
 妻 權之助
 忒子 權わかつし
 娘同 同 よ

一、鳥目三錢老人前老錢宛
 市兵衛
 妻

一、鳥目拾錢老人前老錢宛
 忒子 三四郎
 長兵衛
 妻 母
 長兵衛御 長右衛門
 長兵衛弟 清右衛門
 妻 妻
 同娘 よし
 同 すぎ
 清右衛門娘 ふき

一、鳥目八錢老人前老錢宛
 四郎右衛門
 妻 勘十郎
 忒子 妻 金十郎
 四郎右衛門忒子 同 牛之助
 勘十郎忒子 同 市蔵助
 同 同 六

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 勘右衛門
 妻 助てう
 忒子 娘

一、鳥目六錢老人前老錢宛
 傳兵衛
 妻 角左衛門
 傳兵衛父 妻 猪之助
 傳兵衛忒子 同 たん

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、
 小右衛門
 妻 次郎兵衛
 忒子 同 同 同 娘 長半三郎
 同 同 娘 たつ

一、鳥目四錢老人前老錢宛
 七郎兵衛
 妻 甚ま
 忒子 娘 介さ

一、鳥目六錢老人前老錢宛
 与兵衛
 妻

一、鳥目五銭老人前老銭宛
 権兵衛
 妻
 与兵衛 権兵衛 猪之助
 権兵衛 権兵衛 権太郎

一、鳥目七銭老人前老銭宛
 弥兵衛
 妻
 弥右衛門
 妻
 弥兵衛娘 ゆわ

一、鳥目四銭老人前老銭宛
 勘右衛門
 妻
 勘右衛門弟 助十郎
 同 娘 でうり
 同 ふりぬき
 同 いぬき
 同 さき

一、鳥目三銭老人前老銭宛
 惣右衛門
 藤右衛門
 妻
 藤右衛門 七之助

一、鳥目四銭老人前老銭宛
 所左衛門
 妻
 由右衛門

一、鳥目六銭老人前老銭宛
 市兵衛
 妻
 市右衛門
 妻

一、鳥目六銭老人前老銭宛
 八兵衛
 妻
 母
 八兵衛娘 あまん
 同 かん
 同 せん

一、鳥目五銭老人前老銭宛
 三郎兵衛
 妻
 弥太郎
 同 孫助
 娘 とめ
 下 九左衛門
 次郎兵衛

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 甚兵衛
 妻
 半之介
 山三郎
 同 大助

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 甚兵衛
 妻
 馬之助
 妻
 奎右衛門
 妻
 下 三助

一、鳥目四銭老人前老銭宛
 重兵衛
 妻
 長太郎
 娘 はな

一、鳥目五銭老人前老銭宛
 作左衛門
 三十一郎
 妻
 三十郎 倅子 うしり
 同 とり

一、鳥目五銭老人前老銭宛
 長左衛門
 平左衛門
 妻
 平三郎
 同 娘 かね

一、鳥目四銭老人前老銭宛
 甚五兵衛
 妻
 山之介
 娘 たん女

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 金左衛門
 妻
 源次郎
 妻
 金左衛門 倅子 傳助
 源次郎娘 つめ

一、鳥目八銭老人前老銭宛
 忠左衛門
 妻
 忠左衛門 倅子 次郎右衛門
 妻
 忠左衛門 倅子 喜兵衛
 妻

忠左衛門忰子 う し
 次郎右衛門忰子 三 太 郎

一、鳥目八錢老人前忰錢宛
 彦右衛門
 妻
 母
 彦右衛門弟 虎 之 助
 同 妹 あ き
 彦右衛門忰子 彦 助
 同 大 助
 同 娘 大 け さ

一、鳥目六錢老人前忰錢宛
 市 兵 衛
 妻
 忰子 清 右 衛 門
 妻
 市兵衛娘 た つ
 同 甥 金 三 郎

一、鳥目八錢老人前忰錢宛
 孫 兵 衛
 妻
 忰子 門 左 衛 門
 妻
 孫兵衛弟 角 兵 衛
 妻
 孫兵衛忰子 七 兵 衛
 角兵衛忰子 三 之 助

一、鳥目六錢老人前忰錢宛
 長 左 衛 門
 妻
 母
 長左衛門弟 甚 兵 衛
 同忰子 妻 德

一、鳥目六錢老人前忰錢宛
 金 十 郎
 妻
 忰子 權 之 助
 同 大 助
 娘 せ う
 同 し ゆ ん

一、鳥目五錢老人前忰錢宛
 四郎右衛門
 妻
 母
 弟 佐 五 兵 衛
 妹 こ ま

一、鳥目七錢老人前忰錢ツゝ

✓ 六 左 衛 門
 忰子 平 左 衛 門
 妻
 平左衛門娘 こ ち よ
 下 人 八 介
 同 甚 い と
 下 女

一、鳥目三錢老人前忰錢宛
 四 郎 兵 衛
 妻
 下 女 妻 る す

一、鳥目九錢老人前忰錢宛
 ✓ 權 左 衛 門
 妻
 忰子 空 左 衛 門
 妻
 權左衛門娘 は つ
 同 と め き
 同 あ き
 空左衛門忰子 空 助
 下 人 權

一、鳥目八錢老人前忰錢宛
 吉 左 衛 門
 妻
 母
 吉左衛門弟 半 兵 衛
 妻
 吉左衛門忰子 市 助
 同 門 三 郎
 同 喜 太 郎

一、鳥目三錢老人前忰錢宛
 長 太 郎
 母
 長太郎弟 と ら

一、鳥目八錢老人前忰錢宛
 次 郎 兵 衛
 妻
 弟 文 左 衛 門
 妻
 次郎兵衛忰子 門 助
 同 娘 す き
 同 や す
 文左衛門娘 お く

一、鳥目六錢老人前忰錢宛
 五 兵 衛
 妻
 五兵衛弟 佐 次 兵 衛
 同忰子 太 郎

	同	五	助
	同	四	郎
一、鳥目三銭壱人前壱銭宛		善	九郎
		妻	
	甥	権	之助
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		仁	兵衛
		妻	
		母	
	仁兵衛弟	七	之助
	同娘	い	ぬき
	同	ま	ね
	同	ミ	辰之助
一、鳥目四銭壱人前壱銭宛		八	郎兵衛
		妻	
		母	
	八郎兵衛娘	ふ	き
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		✓	彦左衛門
		妻	
	弟	喜	兵衛
	彦左衛門片子	庄	
	同	三	之助
	下人	重	左衛門
	同	十	兵衛
	下女	ま	さ
一、鳥目七銭壱人前壱銭宛		市	兵衛
		妻	
	片子	半	三郎
		妻	
	市兵衛片子	傳	
	半三郎片子	甚	
	同娘	か	や
一、鳥目七銭壱人前壱銭宛		八	兵衛
		妻	
	片子	権	兵衛
	娘	て	う
	同	し	ます
	同	や	な
一、鳥目拾壱銭壱人前壱銭宛		久	五郎
		妻	

		母	
	久五郎弟	八	蔵
		妻	
	久五郎弟	新	介
	同片子	久	太郎
	同	猪	之介
	同	六	蔵
	同娘	金	三郎
		た	つ
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		三	右衛門
		勘	三郎
		妻	
	三右衛門片子	太	郎兵衛
	勘三郎娘	み	称
	同	な	つ
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		五	郎兵衛
		妻	
	弟	喜	左衛門
	片子	由	兵衛
		妻	
	五郎兵衛片子	市	蔵
	同	六	蔵
	同娘	は	つ
一、鳥目貳銭壱人前壱銭宛		德	兵衛
		母	
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		平	右衛門
		母	
	平右衛門片子	権	四郎
	同	五	右衛門
	同	勘	
	同	う	し
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		源	兵衛
		妻	
	弟	七	兵衛
	源兵衛片子	と	し
	同娘	り	ん
	甥	六	介
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		権	兵衛
		妻	
		母	
	弟	七	蔵
	七蔵片子	権	介

八郎左衛門
 妻 太 郎
 忬子 八 きた く つ
 同 娘 同

一、鳥目拾貳銭老人前老銭宛

兵右衛門
 妻 猪 兵 衛
 弟 勘 兵 衛
 弟 傳 兵 衛
 同 四 郎 兵 衛
 兵右衛門忬子 権 之 介
 同 刃 之 介
 同 娘 いた ぬ つ
 同 娘 た 猪 之 介
 猪兵衛忬子

一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ

藤右衛門
 妻 猪 之 介
 忬子 娘 は な

一、鳥目八銭老人前老銭宛

権兵衛
 弟 喜 兵 衛
 妻 ま つ も
 喜兵衛娘 同 し い
 同 弟 猪 右 衛 門

一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ

八左衛門
 妻 半 之 介
 忬子 娘 か る

一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ

市兵衛
 妻 市 右 衛 門
 忬子 同 弥 五 兵 衛
 同 猪 之 介

一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ

四郎右衛門
 妻 太 郎 兵 衛
 忬子

娘 く に

一、鳥目拾壹銭老人前老銭宛

惣左衛門
 妻 母 之 介
 惣左衛門忬子 刃 す て き さ
 同 同 娘 あ け 三 郎
 同 同 伯 父 弟 彦 左 衛 門
 同 同 弟 同 与 藏
 同 長 藏

一、鳥目九銭老人前老銭宛

次郎兵衛
 妻 半 兵 衛
 忬子 妻 孫 右 衛 門
 二郎兵衛忬子 同 九 之 介
 同 娘 な つ き
 同 同 あ き
 半兵衛忬子 百 松

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

✓ 九左衛門
 妻 市 藏
 忬子 娘 ふ き く し
 同 同 ふ よ 五 郎
 下 人 三

一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ

清右衛門
 妻 権 左 衛 門
 忬子 妻 德 兵 衛
 清右衛門忬子 同 妻 よ し
 清右衛門娘

一、鳥目拾三銭老人前老銭ツゝ

✓ 庄右衛門
 妻 七郎右衛門
 忬子 同 八 介
 同 娘 あ ま
 甥 同 五 兵 衛
 同 下 人 藤 兵 衛
 久 兵 衛

同 八 兵 衛
 同 忠 兵 衛
 下 女 し な
 同 ち や
 同 つ や
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 弥 兵 衛
 妻 猪 之 介
 三 之 介
 へ よ ね
 こ や
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 傳 兵 衛
 長 右 衛 門
 妻 夫 ぐ
 長右衛門娘
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 勘 兵 衛
 妻 長 兵 衛
 妻 や す
 勘兵衛娘
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 傳 右 衛 門
 妻 三 之 介
 権 之 介
 こ ち よ し ん
 よ し ゆ ん
 下 人 長 介
 一、鳥目四銭老人前老銭宛
 德 左 衛 門
 妻 勘 右 衛 門
 兄 夫 ぶ ん
 德左衛門娘
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 喜 右 衛 門
 妻 太 郎 吉
 同 長 之 介
 同 喜 次 郎 介
 同 次 郎 介
 娘 は ね
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、
 七 郎 左 衛 門

妻 母 三 介
 七郎左衛門忒子 し も
 同 娘 弟 佐 五 兵 衛
 弟 妻 五 郎
 同 甚 五 郎
 佐五兵衛忒子 七 之 介
 一、鳥目七銭老人前老銭宛
 市郎左衛門
 妻 忒子 門 左 衛 門
 妻 平 藏
 門左衛門忒子 下 人 久 藏
 下 女 き く
 一、鳥目四銭老人前老銭宛
 長 十 郎
 母 て う
 長十郎娘 同 ま り
 一、鳥目五銭老人前老銭宛
 五 左 衛 門
 妻 忒子 権 太 郎
 同 同 丑 之 介
 同 六 藏
 一、鳥目四銭老人前老銭宛
 四郎左衛門
 妻 忒子 九 十 郎
 下 女 た つ
 一、鳥目五銭老人前老銭宛
 長 右 衛 門
 妻 忒子 長 左 衛 門
 長右衛門忒子 妻 五 郎
 一、鳥目四銭老人前老銭宛
 弥次右衛門
 妻 忒子 三 郎
 娘 へ や
 一、鳥目三銭老人前老銭宛
 佐五右衛門
 妻 忒子 猪 之 介

一、鳥目四銭壺人前壺銭宛

市郎兵衛
妻
権介
子 蔵
同 てき

一、鳥目四銭壺人前壺銭ツ、

重兵衛
妻
長太郎
子 蔵
同 才

一、鳥目八銭壺人前壺銭ツ、

久右衛門
妻
九兵衛
子
久右衛門子
平四郎
九兵衛子
久太郎
同 娘
同 子
九蔵

一、鳥目拾銭壺人前壺銭ツ、

✓ 十良右衛門
妻
左次兵衛
子
十良右衛門子
山三郎
左次兵衛子
長松
下人
左右衛門
同 権三郎
下女
同 すき
よし

一、鳥目五銭壺人前壺銭ツ、

半三郎
妻
半四郎
子 介
同 権
同 之

一、鳥目拾銭壺人前壺銭ツ、

✓ 傳左衛門
妻
六郎左衛門
子 虎松
同 娘 とめ
同 娘 げん
傳左衛門男 山三郎
下人 長兵衛
同 源左衛門
下女 あき

一、鳥目六銭壺人前壺銭ツ、

平七
母 次郎
平七弟 又りん
同 妹 せんに
同 下女 ふり

一、鳥目五銭壺人前壺銭ツ、

与左衛門
母 三太郎
与左衛門弟 権六
同 同

一、鳥目五銭壺人前壺銭ツ、

兵左衛門
妻 太郎
子 介
同 傳 介
娘 き よ

一、鳥目八銭壺人前壺銭ツ、

佐左衛門
妻 六右衛門
子 郎
佐左衛門子 八太郎
右衛門子 同 介
同 同 卯之介
三

一、鳥目拾銭壺人前壺銭ツ、

勘左衛門
妻 五兵衛
子 蔵
勘左衛門子 長な
同 娘 は之
弥五兵衛子 辰介
同 娘 せんに
同 同 ふり
いぬ

一、鳥目七銭壺人前壺銭ツ、

勘右衛門
妻 兵衛
母 五妻
長松
同 娘 ちやう

一、鳥目七銭壺人前壺銭ツ、

半左衛門
妻
忰子 八左衛門
同 午
同娘 半之介
同 ましたつ

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

作左衛門
忰子 弥兵衛
娘 さい

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

左左衛門
妻
忰子 ふうす
娘 や
左衛門弟 八郎兵衛

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

市郎兵衛
妻
忰子 牛
娘 はつや
同 つや
市郎兵衛弟 善四郎

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

次左衛門
妻
次左衛門忰子 弥五左衛門
妻
弥五左衛門忰子 うし
同 三平
同娘 さる

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

三右衛門
忰子 久左衛門
同 権三郎
久左衛門娘 たつ
同 よし
同 ちやう
同 ふく

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

理兵衛
忰子 母傳
同 たつ

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

九兵衛
妻

忰子 太郎
娘 あき

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

久兵衛
妻 介
忰子 百ちやう
娘

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

太郎右衛門
妻 太郎
忰子 長ま
同 か介
同娘 八り
同 まいぬ

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

(原本この丁錯簡あり)
作兵衛
忰子 妻 太郎
娘 太き

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

久兵衛
妻 介
忰子 百ちやう
娘

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

太郎右衛門
妻 太郎
忰子 長ま
同 かまり
同娘 まいぬ
同 忰子 八介

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

半兵衛
忰子 作兵衛
同 妻市藏
作兵衛忰子 同 仁藏

一、鳥目七銭老人前老銭宛

忠兵衛
妻 介
忰子 鎌ま
同 同 七蔵
同娘 け介
同 七さら
同 と

一、鳥目六拾三銭老人前老銭宛

禪宗豪徳寺住持	石国	梁現	和尚
弟子	秀麟	運容	長老
同	嶺	黙	長老
同	嶺	黙	淳
同	嶺	黙	玄
同	嶺	黙	香
同	嶺	黙	鼎
同	嶺	黙	隨
同	嶺	黙	岩
同	嶺	黙	瀟
同	嶺	黙	長
同	嶺	黙	順
同	嶺	黙	補
同	嶺	黙	清
同	嶺	黙	考
同	嶺	黙	原
同	嶺	黙	禪
同	嶺	黙	峯
同	嶺	黙	峯
同	嶺	黙	賀
同	嶺	黙	本
同	嶺	黙	眞
同	嶺	黙	道
同	嶺	黙	蟻
同	嶺	黙	徹
同	嶺	黙	水
同	嶺	黙	堂
同	嶺	黙	門
同	嶺	黙	嶽
同	嶺	黙	印
同	嶺	黙	存
同	嶺	黙	悅
同	嶺	黙	室
同	嶺	黙	嶽
下人	長源	九郎	郎
同	傳	左衛門	門
同	半	右衛門	門
同	平	右衛門	門
同	三	左衛門	門
同	八	市	介
同	市	七左衛門	門
門前	妻	七郎	左衛門
七左衛門	久	兵衛	門
同			

門前	加右衛門	妻	兵衛
加右衛門	四郎	同	兵衛
同	五郎	同	兵衛
門前	清兵衛	妻	て
清兵衛	すま	同	す
同	と	同	め
門前	清右衛門	妻	右衛門
清右衛門	仁兵衛	同	松を
同	犬	同	
同	し	同	

一、鳥目五銭老人前老銭宛

禪宗常徳院住持	龍春	和尚
弟子	宗長	知郎
同人	徳左	衛門

一、鳥目拾老銭老人前老銭宛

禪宗善徳院住持	知秀	嶺哲
隱居	権三	郎
下人	佐五	右衛門
門前	妻	近
倅子	左妻	蔵
左近倅子	七勘	介
同	をつ	と
同娘		た

一、鳥目壹銭

天台宗久成院住持	七	位
----------	---	---

一、鳥目貳銭老人前老銭宛

真言宗仙蔵院住持	存圓	清
弟子		清

一、鳥目三銭老人前老銭宛

浄土宗大吉寺住持	弁縁	和尚
弟子	八右	衛門
下人		

一、鳥目貳銭老人前老銭宛

真言宗圓光院留主居	元春	兵衛
下人	市郎	

人数	合	千六百拾三人
鳥目	合	壹貫六百七拾七文
		但目銭共

妻 権 七
 門 前 妻 母 仁 兵 衛
 娘 子 乙 松
 一、鳥目拾九銭老人前老銭宛
世田谷御朱印寺 眞言宗勝国寺住持
 音 清 法 印
 弟 子 禪 智
 同 音 智
 同 存 智
 同 春 仙
 同 春 傳
 同 奧 春
 同 見 寂
 同 春 春
 同 宥 宥
 同 尊 利
 同 涌 心
 下 人 吉 兵 衛
 同 佐 次 兵 衛
 同 平 彦 兵 衛
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、
世田谷御朱印社 八幡宮神主
 大 場 伯 耆
 同 九 十 郎
 同 宇 右 衛 門
 同 三 十 郎
 同 虎 之 介
 同 作 之 丞
 下 人 權 与 四 兵 衛
 下 女 た っ ま
 同 同 同 同 同
 一、鳥目貳拾銭老人前老銭宛
豪徳寺江湖参居候出家 豆州吉佐義村
 江 戸 月 山 和 尚
 同 渭 北 牛
 同 本 宗 源 舟
 同 栢 雲 洞
 同 竜 雷 海
 同 音

同 靈 淵
 同 江 沢
 同 積 思
 同 義 竿
 同 舟 山
 同 穩 山
 同 補 蝸
 同 雷 應
 同 林 苗
 同 春 興
 同 玉 湛
 同 竜 峯
 同 堯 松
 人数 合 百五拾貳人
 鳥目 合 百五拾六銭
 但目銭共
 右者世田谷御領内御朱印所之寺社并豪徳寺江湖ニ
 参居候出家老人老銭之寄進仕度由大場孫八名主六兵
 衛ヲ以願被申候ニ付書入ル
 2 弦 卷 村
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
年 寄 榎 本 惣 右 衛 門
 同 悱 子 妻 次 兵 衛
 同 娘 彌 次 兵 衛
 同 同 ない つ
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
年 寄 鈴 木 太 左 衛 門
 同 悱 子 仁 左 衛 門
 同 悱 子 千 太 郎
 同 娘 ゆ 郎
 同 太左衛門弟 山 三 郎
 同 弟 太郎 兵 衛
 同 妻
 一、鳥目三銭老人前老銭宛
 庄 右 衛 門
 妻 母
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 四 郎 兵 衛
 妻 母 次 郎
 同 弟 勘 伊 之 松
 同 娘 伊 之 松
 同 娘 み す て
 一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

✓ 次郎左衛門
 妻
 忰子 新 兵 衛
 同 傳 六 介
 同 三 之 郎
 同 小 次 郎
 下 人 角 介
 同 權 三 郎
 同 三 十 郎
 下 女 は つ

一、鳥目八錢老人前老銭ツ、

仁 兵 衛
 妻 權 兵 衛
 妻 と め
 仁兵衛忰子 同 娘 同 忰子 權兵衛娘
 と く と げ
 ら わ ん

一、鳥目式錢老人前老銭ツ、

小 右 衛 門
母

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、

安 右 衛 門
 妻 權 太 郎
 忰子 同
 と ら

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

佐 五 兵 衛
 妻 弥 平 次
 忰子 佐五兵衛娘 弥平次忰子
 ね い
 勤 之 介

一、鳥目七錢老人前老銭ツ、

市 右 衛 門
 妻 母 之 介
 市右衛門娘 同 忰子 同 娘 同 忰子
 ひ め
 伊 之 介
 り ん
 甚

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

八 郎 兵 衛
 妻 長 太 良
 忰子 同 甚 太 良
 八郎兵衛弟 喜 右 衛 門

同 妹 い ん
 一、鳥目八錢老人前老銭ツ、

門 兵 衛
 妻 四 郎
 忰子 權 市 介
 忰子 勘 弟 助
 同 同 娘 同 同 娘 同
 き い
 ふ り

一、鳥目七錢老人前老銭宛

次 兵 衛
 妻 さ ん こ
 娘 忰子 市 二 郎 三 良
 忰子 同 下 女 と め の 介
 ふ り

一、鳥目八錢老人前老銭宛

佐 右 衛 門
 妻 市 郎 兵 衛
 忰子 佐右衛門忰子 同 忰子 市郎兵衛娘 同 忰子
 權 左 衛 門
 与 兵 衛
 た ま
 牛 之 介

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、

✓ 空 右 衛 門
 妻 せ き
 娘 忰子 作 右 衛 門
 下 人 長 吉

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、

空 左 衛 門
 妻 母 兵 衛
 同 娘 空 せ ん

一、鳥目八錢老人前老銭ツ、

✓ 与 五 兵 衛
 妻 權 十 郎
 忰子 娘 同 娘 忰子 下 人
 か ゆ せ た 八
 ま き ん け 蔵

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 平左衛門
 妻
 娘 倅子 是 娘 倅子
 平左衛門弟 同 弟
 は つ
 午 之 介
 安 左 衛 門
 長 兵 衛

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、
 忠右衛門
 妻
 倅子
 八 兵 衛

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 作左衛門
 妻
 倅子 同 娘 同
 次 郎 介
 小 十 郎
 あ ま ち よ
 は な

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 半兵衛
 妻
 倅子 同 娘
 三 左 衛 門
 三 介 っ
 な つ

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 十左衛門
 妻
 母
 十左衛門弟 同 妹
 弥 右 衛 門
 妻
 十左衛門倅子 同 弟
 弥右衛門娘 同
 太 郎 う
 て あ ま

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 伊兵衛
 妻
 倅子 同 娘
 甚 之 介
 三 な っ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 久兵衛
 妻
 倅子 同 娘 同
 長 蔵 ま
 こ た つ

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 七郎左衛門
 妻

娘 倅子 同
 こ ち よ
 き わ く
 ろ く つ
 ま つ

一、鳥目式銭老人前壱銭ツ、
 庄次郎
 妻

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 次左衛門
 妻
 倅子 同 娘
 伊 之 助
 ね い
 次 右 衛 門
 妻
 倅子 同 娘
 十 蔵
 せ き

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 半左衛門
 妻
 倅子 同 娘
 三 平
 た つ
 い ね
 な つ
 む ま
 後 家

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、
 忠左衛門
 母
 忠左衛門弟 同 妹
 六 右 衛 門
 ま ん

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 七兵衛
 妻
 倅子 同 娘 同
 長 兵 衛
 次 郎 介
 た ん ち よ
 し も

一、鳥目拾八銭老人前壱銭ツ、
 甚左衛門
 妻
 母
 甚左衛門娘 同 娘
 同 娘
 甚左衛門弟 同 弟
 三 右 衛 門
 安 兵 衛
 妻
 娘 倅子
 く 又
 め 次 郎

同 又 三 郎
 同 又 五 郎
 同 又 七 郎
 甚左衛門兄 喜 兵 衛
 同 弟 傳 左 衛 門
 同 弟 佐 次 兵 衛
 妻
 忰 子 弟 介

一、鳥目三錢老人前壹錢ツ、

金 三 郎
 妻
 忰 子 勘 太 郎

一、鳥目八錢老人前壹錢ツ、

市郎左衛門
 妻
 忰 子 佐 平 次
 同 ろ く
 同 長 太 郎
 同 七 之 介
 娘 と め
 忰 子 た つ

一、鳥目六錢老人前壹錢ツ、

✓ 次 郎 兵 衛
 妻
 忰 子 武 右 衛 門
 同 勝 之 助
 下 人 太 郎 左 衛 門
 下 女 す き

一、鳥目六錢老人前壹錢ツ、

✓ 吉 右 衛 門
 妻
 母 市 三 郎
 吉右衛門忰子 同忰子
 下 人 二 郎 藏
 久

一、鳥目五錢老人前壹錢ツ、

浄土宗浄光寺住持
 弟 子 学 南
 同 長 天
 同 松 含
 下 人 一 心
 七 左 衛 門

一、鳥目貳錢老人前壹錢ツ、

日蓮宗常在寺住持
 隱 居 常 仙
 智 元

人数 合 貳百貳拾六人
 鳥目 合 貳百三拾四錢
 但目錢共

3 新 町 村

一、鳥目九錢老人前壹錢ツ、

年 寄 志 田 弥次右衛門
 母 新五左衛門
 同 弟 た つ
 同 妹 ゆ わ
 同 妹 ち よ
 同 弟 七 之 介
 同 妹 よ し
 同 弟 喜 八

一、鳥目四錢老人前壹錢ツ、

年 寄 木 村 甚 三 郎
 妹 ゆ き
 弟 佐 五 兵 衛
 同 宇 右 衛 門

一、鳥目四錢老人前壹錢ツ、

年 寄 田 中 十郎右衛門
 伯 父 長 三 郎
 妻
 長三郎娘 ま ん

一、鳥目六錢老人前壹錢ツ、

年 寄 平 居 次 郎 兵 衛
 妻 勘 右 衛 門
 忰 子 妻 は つ
 勘右衛門娘 同忰子 次 郎

一、鳥目拾壹錢老人前壹錢ツ、

✓ 甚 左 衛 門
 妻 太 郎 兵 衛
 忰 子 妻 虎 之 介
 甚左衛門忰子 同娘 同忰子 同娘 同娘
 同娘 権 介 り
 同娘 同娘 同娘 同娘
 太郎兵衛忰子 同娘 同娘 同娘
 下 人 万 之 介
 七 藏

一、鳥目八錢老人前壹錢ツ、

✓ 兵 右 衛 門
 妻 安 左 衛 門
 忰 子 妻 五 左 衛 門
 兵右衛門忰子 同娘 同娘 同娘
 安左衛門忰子 同娘 同娘 同娘
 太 郎

同 娘 ゆ り
下 人 三 介

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

権 右 衛 門
妻
忰 子 五 郎
同 同 娘 同 娘 同 娘
忰 子 忠 左 衛 門
妻
忠左衛門忰子 権 之 介
同 娘 同 娘 こ ち よ

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

弥 兵 衛
忰 子 弥 右 衛 門
妻
弥兵衛忰子 九 兵 衛
同 娘 同 娘 同 娘
弥右衛門娘 同 忰子 同 娘
た ん ち よ
竹 せ う ふ

一、鳥目拾四銭老人前老銭ツ、

✓ 吉 右 衛 門
妻
母
吉右衛門娘 いぬちやう
同 娘 同 忰子
た け
同 弟 同 弟 同 弟
源 七 兵 衛
猪 兵 衛
妻
猪兵衛忰子 竹 之 介
同 忰子 同 忰子
下 人 下 女
猪 之 助
傳 右 衛 門
つ ま

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

権 三 郎
妻
母
権三郎忰子 権 太 郎
同 忰子 同 忰子
同 娘 同 娘
同 忰子 同 忰子
六 右 衛 門

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

忰 子 七 右 衛 門
娘 同 娘 同 娘
角 左 衛 門
ま ん ち よ

一、鳥目拾壹銭老人前老銭ツ、

仁 左 衛 門
妻
忰 子 市 郎 兵 衛
妻
仁左衛門忰子 三 十 郎
同 娘 同 娘 同 娘
市郎兵衛娘 いぬちやう
同 娘 同 娘 同 娘
同 娘 同 甥
へ き ひ
作 兵 衛

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

三 五 郎
妻
忰 子 清 右 衛 門
娘 同 娘
と め

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

長 兵 衛
母
長兵衛忰子 惣 二 郎
妻
惣二郎忰子 七 之 介

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

市 兵 衛
妻
忰 子 弥 五 郎
同 娘 同 娘
三 な 善 四 郎

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

市 郎 右 衛 門
忰 子 勘 十 郎
妻
市郎右衛門忰子 勘 十 郎 娘
同 忰子 同 忰子
権 兵 衛
ち や う
次 郎

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

✓ 清 兵 衛
妻
忰 子 八 十 郎
下 人 下 人
長 五 郎

一、鳥目拾五銭老人前老銭ツ、

✓ 七 郎 右 衛 門
忰 子 半 四 郎
同 娘 同 娘
午 之 介
は り な ん

- 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 - 同 娘 し も
 - 同 妹 か ま
 - ✓ 庄 兵 衛
 - 妻 兵 衛
 - 娘 く り
 - 倅 子 市 兵 衛
 - 妻 三 郎
 - 下 人 山 三 郎
 - 下 女 つ まり
 - 同 と り

- 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
 - 多 左 衛 門
 - 妻
 - 娘 母 け さ
 - 倅 子 辰 之 助
 - 同 辰 長 松
 - 多左衛門弟 茂 左 衛 門

- 一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、
 - 吉 兵 衛
 - 妻 兵 衛
 - 母 四 郎
 - 同倅子 門 之 介
 - 同 弟 猪 之 介
 - 同 妹 辰 之 助
 - 同從弟 さ つ
 - 小 右 衛 門

- 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、
 - 佐 平 次
 - 妻 は つ
 - 娘 勤
 - 佐平次弟

- 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 - ✓ 猪 右 衛 門
 - 妻 母
 - 祖母 ぬ
 - 猪右衛門娘 同 弟 作 十 郎
 - 妻 兵 衛
 - 下 人 長

- 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、
 - 七 之 助
 - 伯 父 角 介

- 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

- 理 右 衛 門
 - 妻 勘 三 次 郎
 - 倅 子 三 つ や
 - 同 娘
 - 理右衛門妹嫁 傳 左 衛 門
-
- 一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツ、
 - 半 左 衛 門
 - 妻 源 右 衛 門
 - 倅 子 仁 兵 衛
 - 同 娘 半 九 郎
 - 同 同 ね い り
 - 同 同 つ う
 - 倅 子 辰 之 介
 - 同 同 権 三 郎
 - 同 同 姪 ふ り
-
- 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 - 権 兵 衛
 - 妻 金 三 郎
 - 倅 子 妻 之 介
 - 権兵衛倅子 傳 太 良
 - 金三郎倅子 源 五 良
 - 同倅子 同倅子 藤 松
-
- 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 - 久 兵 衛
 - 妻 猪 之 介
 - 倅 子 ね ひ
 - 娘 倅 子 牛 之 介
 - 同 同 い ぬ 松
-
- 一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
 - 喜 兵 衛
 - 妻 た ね
 - 娘 喜兵衛嫁 三 右 衛 門
 - 三右衛門娘 同倅子 妻 と り
 - 同 同 娘 長 け さ
-
- 一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、
 - ✓ 傳 兵 衛
 - 妻 つ ま
 - 娘 倅 子 喜 之 介

娘 さんご
傳兵衛弟 七郎左衛門
同 妹 さる
同 弟 六
下 人 奎 兵 衛
同 甚 兵 衛

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

甚五左衛門
妻
忬子 八十郎
娘 子 あき
忬子 虎之介
同 權

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、

吉左衛門
妻
忬子 新六
娘 下 女 りか
同 かる

一、鳥目七錢老人前老銭ツ、

善兵衛
妻 ちやう
娘 子 市十郎
忬子 八兵衛
善兵衛弟 妻 よ ね
善兵衛妹

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

八右衛門
妻 は ち
八右衛門弟傳左衛門 後 家
同 甥 午 之 介
同 次 郎

一、鳥目八錢老人前老銭ツ、

孫 兵 衛
妻 理 兵 衛
忬子 源 之 介
同 半 兵 衛
翫 妻 ち
娘 子 ち 兵 衛
下 人 三 左 衛 門

一、鳥目式錢老人前老銭ツ、
禪宗善養院住寺 (ママ) 国 田
隱 居 門 朔
人数 合 三百三拾式人
鳥目 合 三百四拾四錢

但目錢共

4 用 賀 村

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、
名主 ✓ 飯 田 弥 右 衛 門
妻 せ ん
娘 子 弥 之 助
忬子 娘 子 つ 重 次 郎
娘 子 重 し な
娘 下 人 彦 右 衛 門
下 人 長 兵 衛
同 女 才 兵 衛
下 女 う ば

一、鳥目八錢老人前老銭ツ、
年寄 飯 田 八郎右衛門
妻 助 左 衛 門
忬子 同 善 右 衛 門
娘 同 よ ち
同 同 ふ ち
同 同 と ら

一、鳥目拾錢老人前老銭ツ、
年寄 ✓ 飯 田 傳 兵 衛
妻 さ ま
娘 子 傳 と 介
忬子 娘 子 庄 か の
同 弟 同 弟 下 人 虎 之 助
同 同 同 同 長 四 郎
同 同 同 同 十 三 郎

一、鳥目七錢老人前老銭ツ、
年寄 金 子 源 左 衛 門
妻 源 右 衛 門
忬子 同 市郎右衛門
同 妻 た ん
市郎右衛門娘 同 き い

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、
✓ 次郎左衛門
妻 平 次 郎
忬子 同 い の

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

姪下人 ちやう 七 蔵

長兵衛 妻はくさか

娘同妹同 なにいな

一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、

庄右衛門 妻 兵左衛門 権之介 七三郎 かなかき 金右衛門 妻ふき

父 庄右衛門 同 娘 同 弟 金右衛門 同

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

猪右衛門 妻元さあ

子 介る介ま

娘 子 新あ

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、

✓ 三郎右衛門 妻 弥三郎 八三郎 長三郎 なまつ

子 三郎 八三郎 長三郎 同 同

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

✓ 甚五右衛門 妻 熊之介 三権介 又右衛門 午三郎 六な 蔵つ

子 之介 三権介 又三郎 六な

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

✓ 七郎兵衛 妻うま 虎甚かこり七長

子 同 同 同 同 同 同

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

✓ 甚左衛門 妻 平左衛門 妻 甚太郎 権す七ひな

父 甚左衛門 同 同 同 同 同

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

✓ 武右衛門 妻母さあ

武右衛門 同 同 同 同 同

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

作左衛門 妻いつか安妻

娘 同 子 同

一、鳥目式銭老人前老銭ツ、

三四郎 三す

娘

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

六右衛門 妻さか

娘

同 弟 文 左 衛 門
 文左衛門娘 ま つ ま
 同 さ ま

一、鳥目九銭壺人前壺銭ツ、

半 三 郎
 妻
 半三郎弟 次 兵 衛
 妻
 次兵衛粹子 市 次
 同 庄 与 平
 同 娘 七 ミ の
 同

一、鳥目七銭壺人前壺銭ツ、

弥惣左衛門
 妻
 母 な つ
 弥惣左衛門妹 同 兄 与 兵 衛
 与兵衛粹子 妻 う ま

一、鳥目五銭壺人前壺銭ツ、

久 右 衛 門
 妻
 娘 こ ち よ ま し
 同 さ さ よ し
 同

一、鳥目七銭壺人前壺銭ツ、

太郎右衛門
 妻 は な
 娘 粹 子 才 三 郎
 妻 ね い
 才三郎娘 同 粹子 八 十 郎

一、鳥目拾壺銭壺人前壺銭ツ、

喜 右 衛 門
 妻
 粹 子 奎 左 衛 門
 妻
 奎左衛門粹子 庄 兵 衛
 同 せ 権 ん
 同 娘 し や う
 同 と く ら に し
 同 よ

一、鳥目拾四銭壺人前壺銭ツ、

庄 左 衛 門
 妻
 粹 子 金 左 衛 門
 妻
 金左衛門娘 よ し
 同 を な
 庄左衛門弟 門 三 郎
 同 清 十 郎
 妻
 清十郎娘 ね い
 庄左衛門弟 加 右 衛 門
 妻
 加右衛門娘 い ぬ
 同 さ る

一、鳥目八銭壺人前壺銭ツ、

✓ 傳 左 衛 門
 妻
 母 な つ
 傳左衛門娘 同 妹 同 弟 同 下 人 宇 右 衛 門
 妻 権 四 郎

一、鳥目拾壺銭壺人前壺銭ツ、

✓ 権 右 衛 門
 妻
 娘 粹 子 よ う し ま
 同 仁 兵 衛
 仁兵衛娘 い ぬ
 下 人 長 吉
 同 下 女 理 右 衛 門
 同 ち や う
 き く

一、鳥目四銭壺人前壺銭ツ、

次 郎 兵 衛
 妻
 粹 子 次 郎 兵 衛
 娘 妻 次 郎 兵 衛
 き い

一、鳥目九銭壺人前壺銭ツ、

久 左 衛 門
 妻
 粹 子 太 左 衛 門
 娘 こ ち よ
 同 つ ま ち て
 同 甚 兵 衛
 久左衛門弟

甚兵衛 妻子
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 市郎左衛門
 妻
 娘 ふ く
 忰子 熊
 市郎左衛門弟 兵右衛門
 一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、
 太郎兵衛
 妻
 忰子 次左衛門
 妻
 次左衛門忰子 甚太郎
 同 同 三太郎
 同 同 弥太郎
 同 同 与四郎
 同 同 娘 しくな
 同 同 くに
 同 同 はいな
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 半兵衛
 母 猪
 半兵衛兄 猪
 同 妹 まて
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 市右衛門
 妻
 娘 忰子 へん
 娘 娘 いぬ
 下人 勤兵衛
 下女 つな
 同 同 かな
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 五兵衛
 妻
 忰子 権三郎
 同 同 傳十郎
 妻
 傳十郎忰子 権四郎
 同 同 娘 こちよ
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 孫左衛門
 妻
 娘 たり
 忰子 いせ

同 徳兵衛
 妻
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 久蔵
 妻 母 傳 介
 久蔵忰子 同 娘 きいつ
 同 弟 八蔵
 同 姪 すて
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 九郎右衛門
 母 し
 九郎右衛門娘 同 弟 猪左衛門
 同 同 妹 しやう
 同 同 はま
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 門三郎
 妻 権
 忰子
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 彦右衛門
 妻 はま
 娘 同 忰子 三八
 一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 喜左衛門
 妻 いわ
 忰子 同 娘 傳よし
 同 同 姪 よめ
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 七兵衛
 妻
 父 同 十左衛門
 十左衛門忰子 同 三蔵
 同 九郎
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 市三郎
 妻 たり
 忰子 娘 たり
 同 同 姪 三太郎

娘 ま ん

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
庄 九 郎
妻
倅 子 庄 之 助
同 庄 三 郎
同 庄 次 郎
同 源 四 郎

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、
長 左 衛 門
妻
母
長左衛門倅子 す け

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、
德 右 衛 門
妻
倅 子 次 郎

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
七郎左衛門
妻
倅 子 く め 之 介
同 う し
同 午 之 介
娘 た つ
倅 子 五 郎 八

一、鳥目拾四銭老人前壱銭ツ、
✓ 五郎右衛門
妻
母
倅 子 五 郎 介
同 三 之 介
娘 か ね り
同 ふ 徳 左 衛 門
下 人 八 市 十 郎
同 同 又 蔵 っ さ
下 女 は け な
同 下 女 な

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、
甚 五 左 衛 門
妻
娘 は つ
倅 子 甚 介

一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、
八 右 衛 門
妻

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、
九 兵 衛
倅 子 小 兵 衛
同 同 虎
九兵衛妹 た ね
吉兵衛 後 市 兵 衛
同倅子 同 娘 同 同
同 同 同 倅子 三 吉

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
仁 左 衛 門
妻
母
仁左衛門倅子 長 太
同 同 長 五 郎
同 同 ち よ

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、
五 左 衛 門
妻
倅 子 権 三 郎

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、
✓ 清 右 衛 門
妻
倅 子 太 兵 衛
太兵衛娘 よ し
同 同 へ ん
下 人 善 四 郎
同 同 八 右 衛 門
同 同 ち や う

一、鳥目拾貳銭老人前壱銭ツ、
佐五右衛門
妻
母
佐五右衛門娘 た ね
同 同 は な
佐五右衛門兄 市 兵 衛
妻 市
市兵衛倅子 市
同 同 ま て
同 同 さ つ
同 同 長 吉
同 同 権

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
作 兵 衛
妻

作兵衛父 弥 兵 衛
 妻
 作兵衛娘 ち や う
 同 い せ
 一、鳥目拾壹銭老人前壹銭ツ、
 恠子 茂 右 衛 門
 同 八 兵 衛
 娘 ふ じ な
 恠子 長 右 衛 門
 妻
 長右衛門恠子 う し
 同 せ ち
 茂右衛門恠子 喜 平 次
 妻
 嘉平次恠子 太 郎
 一、鳥目九銭老人前壹銭ツ、
 庄 左 衛 門
 妻
 父 佐 左 衛 門
 庄左衛門娘 し も
 同 は な
 庄左衛門妹 は つ
 庄左衛門躰 権 兵 衛
 妻
 権兵衛恠子 さ の
 一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、
 清 兵 衛
 妻
 父 七 右 衛 門
 清兵衛恠子 三 介
 清兵衛弟 五 郎 兵 衛
 妻
 五郎兵衛恠子 吉 右 衛 門
 妻
 一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、
 三郎左衛門
 妻
 恠子 や ま
 三郎左衛門伯父 作 十 郎
 妻
 作十郎恠子 ふ ぢ
 同 牛 く
 同 くら
 一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、
 ✓ 弥 五 兵 衛
 妻
 娘 し や う

同 しま も
 同 下 人 仁 兵 衛
 一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、
 半 右 衛 門
 妻
 母
 半右衛門恠子 せ ん
 同 次 郎
 同 三 吉
 一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、
 与 兵 衛
 妻
 恠子 猪 兵 衛
 同 妻
 猪兵衛恠子 八 介
 娘 次 郎
 同 権
 一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、
 十 右 衛 門
 妻
 娘 た ん
 同 こ こ な
 同 八 女
 十右衛門弟 八 兵 衛
 同 妻
 一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、
 三 郎 兵 衛
 妻
 母 う め
 三郎兵衛娘 同 傳
 同 を と
 同 ひ さ
 一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、
 猪 兵 衛
 妻
 母 か つ
 猪兵衛娘 同 も
 同 し う め
 一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、
 庄 兵 衛
 妻
 恠子 庄 吉
 娘 同 四 郎
 恠子 弥

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 勘右衛門
 妻
 娘 子 かつ吉の衛
 仲 子 三 吉の衛
 同 才兵衛
 同 妻

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 五郎左衛門
 妻
 仲 子 五郎作
 娘 いぬま
 五郎左衛門妹 つま

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 吉左衛門
 庄兵衛
 妻
 庄兵衛娘 はなん
 吉左衛門妹 て

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、
 六郎兵衛
 妻
 仲 子 熊
 同 甚きく
 娘 きはな
 同 は三左衛門
 六郎兵衛兄 半右衛門
 同 妻

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 次兵衛
 妻
 娘 りん
 仲 子 次郎市

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 作右衛門
 妻
 母 丹介
 作右衛門仲子 七き
 同 娘 七つ
 同 娘 な

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 真言宗真福寺住持 遍 誉
 隠居 定 遍
 弟子 良 存
 道心 浄 蓮
 同 浄 心

一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、
 浄土宗無量寺住持 鑑 秀
 隠居 念 誉
 人数 合 五百八拾八人
 鳥目 合 六百拾貳銭
 但目銭共

5 野良田村

一、鳥目拾九銭老人前老銭ツ、
 名主 ✓ 糟谷 猪兵衛
 妻
 仲 子 与惣兵衛
 与惣兵衛娘 妻 さか
 同仲子 源次郎
 下人 喜兵衛
 同 金三郎
 同 五郎左衛門
 同 三四郎
 同 長九郎
 同 吉右衛門
 同 吉蔵
 同 新六か
 同 女 あかき
 同 同 たつ
 同 同 ひさ
 同 同 あさ

一、鳥目拾六銭老人前老銭ツ、
 名主 ✓ 糟谷 源左衛門
 妻
 仲 子 源右衛門
 源左衛門仲子 妻 茂左衛門
 源右衛門娘 妻 いぬ
 同 きく
 同 さつ
 同 ふく
 茂左衛門仲子 源太郎
 下人 清三郎
 同 八兵衛
 同 理右衛門
 同 下女 弥兵衛
 同 同 あき

一、鳥目拾四銭老人前老銭ツ、
 年寄 ✓ 糟谷 市右衛門
 仲子 市郎兵衛

妻
市右衛門 源 兵衛 梓子
妻
市右衛門 平 左衛門 梓子
市郎兵衛 同 梓子
源兵衛 同 梓子
下人 清 右衛門
同 三十郎
同 八藏
下女 いぬ

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
年寄

✓ 糟谷 兵左衛門
娘 とらさ
同 けさじ
下人 吉兵衛
同 七左衛門

一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、
年寄

駕藤 惣兵衛
梓子 妻
惣兵衛 惣左衛門 梓子
惣兵衛 六左衛門 梓子
惣兵衛 勘左衛門 梓子
惣左衛門 同 梓子
同 甚太郎
六左衛門 同 梓子
同 姪 牛之助
ゆわ

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、
年寄

✓ 白居 十左衛門
妻
母 右衛門
十左衛門 同 娘
同 梓子
同 七之助
下人 権之助
同 喜平次
同 六藏

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

✓ 太郎右衛門
妻
梓子 太左衛門
太郎右衛門 妻
娘 りん

太左衛門 太 郎
下人 庄 三郎

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

勘右衛門
妻
梓子 長左衛門
妻
勘右衛門 市郎左衛門 梓子
同 勘兵衛
同 娘 じやう
同 同 くに
同 梓子 づう

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

✓ 安左衛門
梓子 甚左衛門
娘 こちよ
同 ねい
同 なつ
下人 女 まつ
下 づく

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

安右衛門
妻 之助
梓子 権た七之助
娘 梓子

一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、

与兵衛 後米之家
梓子 久米之助
娘 つ勘之助
梓子 重七郎
同 同 兵衛
与兵衛 下人 次作右衛門
同 同 市たゆす
同 同 同 かりき

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

傳左衛門
妻 兵衛
梓子 清兵衛
傳左衛門 妻
梓子 七郎兵衛
清兵衛 妻
同 娘 しやう
同 梓子 虎之助

同 娘 み い
 同 か や
 七郎兵衛 子 長 作
 下 人 半 兵 衛
 同 長 助

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、

市郎右衛門
 妻
 母
 子 市 之 助
 同 く め

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

兵 右 衛 門
 妻
 弟 小 右 衛 門
 妻
 兵右衛門 子 久 左 衛 門
 同 娘 せ き
 同 子 七 之 助
 同 と め
 小右衛門 娘 じ や う
 同 に わ

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

五 郎 兵 衛
 妻
 娘 た つ
 同 き く

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

✓ 彦 右 衛 門
 妻
 弟 猪 之 助
 妹 ね い
 彦右衛門 子 庄 之 助
 下 人 長 兵 衛

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、

✓ 次 右 衛 門
 妻
 子 金 十 郎
 同 小 傳
 下 人 庄 右 衛 門

一、鳥目拾貳銭老人前壱銭ツ、

✓ 権 右 衛 門
 子 善 兵 衛
 妻
 権右衛門 子 三 右 衛 門
 妻
 善兵衛 娘 た ん 女
 同 は る

三右衛門 子 吉 助
 同 娘 あ き
 下 人 助 太 郎
 同 久 兵 衛
 同 才 兵 衛

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

傳 兵 衛
 妻
 姉
 弟 六 兵 衛
 姉 子 六 三 五 郎
 同 六 之 助
 傳兵衛 子 満 太 郎
 久 兵 衛

一、鳥目壱銭

一、鳥目拾三銭老人前壱銭ツ、

✓ 弥次右衛門
 妻
 子 権左衛門 後 家
 弥次右衛門 子 弥 五 左 衛 門
 妻
 左衛門 子 弥 次 兵 衛
 後家 子 百 之 助
 同 娘 す 右 衛 門
 下 人 喜 兵 衛
 同 長 五 郎
 同 同 三 五 郎
 下 女 は な

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

八 右 衛 門
 妻
 子 太 郎
 同 権 太 郎

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

猪 右 衛 門
 妻
 子 弥 右 衛 門
 妻
 猪右衛門 子 庄 左 衛 門
 同 喜 助
 同 角 藏
 同 九 之 助
 弥右衛門 娘 さ ま

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

✓ 太 郎 兵 衛
 妻
 母
 太郎兵衛 娘 あ ま

同 じ や う
 同 忰子 虎 之 助
 同 桓 之 助
 下 人 長 左 衛 門
 同 安 兵 衛

一、鳥目拾銭老人前壹銭ツ、

✓ 三郎右衛門
 妻
 母
 三郎右衛門忰子 七郎兵衛
 妻
 三郎右衛門娘 あ ま
 同 忰子 源 之 助
 七郎兵衛忰子 猪 之 助
 下 人 権 四 郎
 同 山 三 郎

一、鳥目拾銭老人前壹銭ツ、

七 兵 衛
 妻
 伯 父 忠 左 衛 門
 妻
 算 次 郎 兵 衛
 妻
 七兵衛忰子 助 太 郎
 同 作 之 助
 同 娘 作 き
 次郎兵衛娘 ふ り

一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、

七 右 衛 門
 妻
 母
 七右衛門娘 ま つ

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

文 左 衛 門
 妻
 忰 子 金 右 衛 門
 同 娘 文 右 衛 門
 同 忰子 ま ん
 庄 之 助

一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、

✓ 権 兵 衛
 妻
 忰 子 佐 五 右 衛 門
 妻
 忰 子 孫 三 郎
 下 人 喜 兵 衛
 同 仁 左 衛 門

一、鳥目拾壹銭老人前壹銭ツ、

✓ 平 右 衛 門
 妻
 母
 平右衛門弟 甚 兵 衛
 妻
 平右衛門娘 じ や う
 同 る す
 同 み な
 甚兵衛娘 き よ
 下 人 三 助
 同 惣 兵 衛

一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、

五郎右衛門
 妻
 忰 子 辰 之 助
 同 勘 十 郎

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

市 兵 衛
 妻
 母
 市兵衛娘 お と
 同 忰子 か ま て
 同 娘 ま て

一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、

孫 兵 衛
 妻
 娘 へ や
 忰 子 猪 之 助
 同 孫 市
 庄兵衛 母

一、鳥目壹銭

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

戸 右 衛 門
 妻
 忰 子 孫 右 衛 門
 戸右衛門忰子 妻
 同 娘 金 左 衛 門
 同 小 兵 衛

一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、

五 兵 衛
 弟 妻 金 兵 衛
 妻
 五兵衛娘 あ ま
 同 忰子 う し
 同 娘 で う

一、鳥目三銭老人前壹銭ツ、

真言宗金剛寺住持 本 清

下人 徳兵衛
同 奎左衛門
人数 合 貳百九拾四人
鳥目 合 三百六錢
但目錢共

6 小山村

一、鳥目拾壹錢老人前壹錢ツ、

名主 田中市十郎
妻 権之助
母 三之助
市十郎弟 同 猪之介
同 妹 市三郎
同 姉子 源六
同 女 くにさ
同 同 ひ

一、鳥目七錢老人前壹錢ツ、

年寄 坂田源左衛門
弟 妻 権大助
源左衛門姉子 同 娘 まつ
同 同 子 ゆき
同 同 子 虎

一、鳥目三錢老人前壹錢ツ、

落合庄兵衛
妻 辰之助
姉子

一、鳥目八錢老人前壹錢ツ、

喜右衛門
妻 母 せき
同 同 かくん
同 同 八め蔵
下人 同 仁蔵
(鳥目のこと脱か)
弟 弥五兵衛
三 五郎

一、鳥目八錢老人前壹錢ツ、

屋守辰之助
同 加兵衛
同 妻 せん
同 同 長三郎

同 娘 いぬ
同 同 とめ
同 同 じやう

一、鳥目八錢老人前壹錢ツ、

庄太郎 妻 母 はな
同 妹 つくま
同 弟 七之助
同 同 姉 かつた

一、鳥目拾貳錢老人前壹錢ツ、

長左衛門 妻 長九郎
弟 妻 五郎兵衛
長左衛門弟 同 弟 八右衛門
同 同 姉子 三太郎
同 同 長九郎娘 半四郎
同 同 姉子 はつ
五郎兵衛姉子 同 同 子 三午之助

一、鳥目四錢老人前壹錢ツ、

市兵衛 妻 ねい
姉 同 市兵衛姉子 牛

一、鳥目拾錢老人前壹錢ツ、

八左衛門 妻 久太ん
同 同 甥 娘 たか
同 同 下人 喜蔵
同 同 下女 母い
同 同 下人 甚せ太

一、鳥目六錢老人前壹錢ツ、

藤右衛門 妻 三郎
同 同 姉子 喜三郎
同 同 娘 ちよ
同 同 娘 ねい

一、鳥目七錢老人前老銭ツ、

甚五兵衛
妻
伯父 久右衛門
甚五兵衛妹 はな
同忰子 太郎
同娘 あき
同忰子 辰之助

一、鳥目三錢老人前老銭ツ、

三九郎
母久助
三九郎弟

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、

傳助
母なつ
傳助姉 弥之助
同弟

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、

喜之助
母なつ
喜之助妹 猪之助
同弟

一、鳥目四錢老人前老銭ツ、

傳兵衛
妻まく
妹 くに
傳兵衛娘

一、鳥目九錢老人前老銭ツ、

勘右衛門
妻半兵衛
弟 妻はつ
勘右衛門娘 さま
同 勘三郎
同忰子 八蔵
同娘 ふり
半兵衛忰子 八蔵
(鳥目のこと脱力) 浄土宗傳乘寺住持 下人 九蔵

人数 合 百拾貳人
鳥目 合 百拾六錢

但目錢共

7 下野毛村

一、鳥目拾七錢老人前老銭ツ、

庄屋 ✓ 戸居田三郎兵衛
父 三左衛門
母

三郎兵衛忰子 権 六郎
同 又三 松
同 竹喜之 介
同娘 はなつ
同 妹 まさな
同 下 仁蔵
同 久兵衛
同 三介
同 女 くら
同 下 ひさ
同 じやう

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

年寄 ✓ 原 猪右衛門
妻
母 安左衛門
弟 同 久左衛門
下 人 長四郎

一、鳥目九錢老人前老銭ツ、

✓ 加藤 弥五左衛門
妻 武右衛門
忰子 うし
忰子 竹かけ 松
同娘 同 下 九兵衛
同 人

一、鳥目五錢老人前老銭ツ、

清兵衛
妻三喜う
忰子 介
同 太郎
同 蔵

一、鳥目六錢老人前老銭ツ、

猪兵衛
妻母七あへ
猪兵衛忰子
同娘
同

一、鳥目九錢老人前老銭ツ、

三郎右衛門
妻
母

	三郎右衛門忰子	所左衛門	同	甚左衛門
		妻	同	七兵衛
	三郎右衛門娘	はな	一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ	彦右衛門
	同	りん		妻
	所左衛門忰子	八十郎		忰子
	同娘	なつ		同娘
一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ		長四郎		べん
		妻	一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ	九十郎
	忰子	とら		てう
	娘	へや		新五郎
	同	ゆり		妻
一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ				猪之介
			一、鳥目七銭老人前老銭ツゝ	りん
	忰子	庄左衛門		弥五兵衛
		庄次郎		妻
	庄次郎忰子	妻		忰子
	同娘	喜太郎		同娘
一、鳥目式銭老人前老銭ツゝ		ねい		同娘
		八郎兵衛		同
		妻	一、鳥目八銭老人前老銭ツゝ	てう
一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ				左五右衛門
		一郎兵衛		妻
	忰子	とら		父
	娘	こちよ		左五右衛門忰子
	同	くに		同娘
一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ				同娘
		甚右衛門		同
		妻	一、鳥目四銭老人前老銭ツゝ	同
	甚右衛門弟	母		同
一、鳥目拾銭老人前老銭ツゝ		五兵衛		与作
				母
		勘右衛門		与作姉
		妻	一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ	同弟
		母		太一郎
	勘右衛門忰子	勘太郎		
	同	うめ		市兵衛
	同娘	かつ		妻
	同弟	か庄之介		父
	同妹	七兵衛		市兵衛忰子
	同	なつ	一、鳥目六銭老人前老銭ツゝ	同娘
一、鳥目六銭老人前老銭ツゝ		てう		せき
				半兵衛
		三右衛門		妻
	忰子	妻		忰子
	同	才兵衛		同
		太郎左衛門		同
				権十郎
				ごん
				太郎
				半三郎

